

社会学研究科博士課程前期課程 2 回生野村実さんが
国際公共経済学会奨励賞を受賞されました。

社会学研究科博士課程前期課程 2 回生の野村実さんが国際公共経済学会奨励賞を受賞されました。国際公共経済学会奨励賞とは国際公共経済に関する、大学院修士課程・博士課程在籍者およびそれに準ずる者の学術的研究の奨励に資するため、設けられたもので、優秀なる論文、学会報告を審査選定してこれに賞を授与するものです。

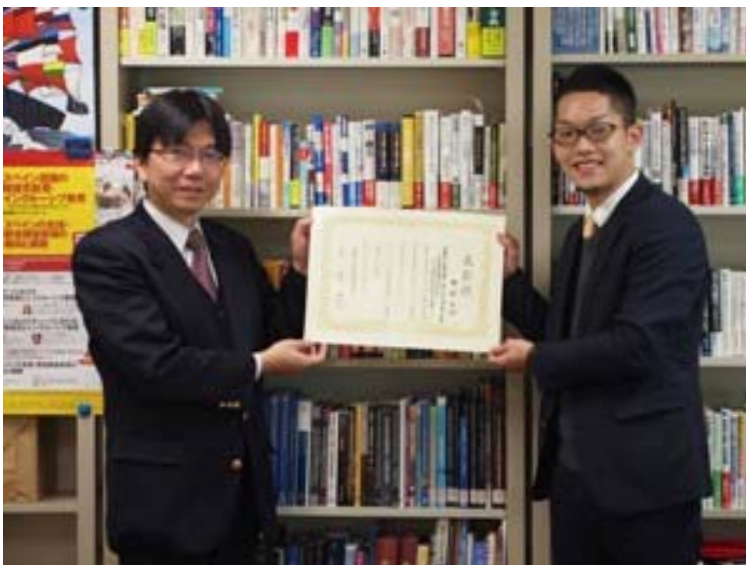
以下、発表に関する野村さんの研究概要です。

【研究概要】

本研究では、主に地方部における高齢者の「移動」に焦点を当て、地域の交通の運行主体を担っている二つの社会福祉協議会（社協）について、事例研究を行った。近年社会問題として認識されつつある買い物難民・交通弱者という「住民側の課題」と、地方交通の衰退という「行政側の課題」について、双方の課題解決に向けてDRT・デマンド交通が「新たな公共交通」としてどのような役割を担うか考察した。

しかし、二つの社協へ複数回のフィールドワークを行った結果、現場では社会的ネットワークが作用していることが分かった。本来交通事業を専門としない社協が主体となることで、交通システムだけではなく現場の人々の創意工夫、福祉専門職としての誇りを持った地域福祉活動が実践されていることが明らかになった。具体的には、地域住民のニーズ把握や、交通網構築において運行主体としてイニシアチブをとり、地域福祉の側面からガバナンスを行ってきたことが分かった。

既存の交通論研究においては、公共交通は「独立採算制」を前提に考えられてきたが、本研究では社会学および地域福祉の分析視座を用いた。これによって、地域の医療費削減や商業施設の活性化等、交通の「社会的効果」に着目することが可能となり、既存の交通論研究に新たな知見をもたらさうものと考えられる。



＜左側が指導教員の黒田先生、右側が野村実さん＞

【当日用いたプレゼンテーション】

<https://prezi.com/qnixtatlcamd/presentation/>

また野村さんは【地方公共交通におけるガバナンスと地域福祉に関する研究】の題で、2014年度立命館大学大学院リサーチプロポーザルコンテストで大賞を受賞されています。

今後の益々のご活躍を期待しています。